

令和 7 年度
練馬区死亡小票分析報告書（案）の説明資料

令和 8 年 1 月 30 日
練馬区地域医療課

1. 調査概要

・ 調査目的

本調査は、練馬区における看取り死（死亡診断書が発行された死亡）の状況を分析することで、在宅療養環境整備の進捗状況を把握し、施策に活かすことを目的とする。

・ 調査方法

厚生労働省が実施する人口動態調査の死亡票を区独自に集計・分析した。

・ 調査期間・対象

令和6年1月1日～12月31日に死亡した練馬区民を対象にした。また令和5年以前分については過年度の分析結果を用いた。

本資料における定義

●看取り死・異状死

看取り死：病死・自然死のうち医師（監察医・嘱託医以外）が死亡診断書が発行したもの

異状死：上記以外の病死・自然死のほか、交通事故等での死で、監察医・嘱託医が死体検案書が発行したもの

●老人ホーム

老人ホーム：特別養護老人ホーム（特養）、有料老人ホーム（有料）、サービス付き高齢者向け住宅（サ高住）、グループホーム、養護老人ホーム、軽費老人ホーム

●老健・介護医療院

老健・介護医療院：介護老人保健施設・介護医療院

●医療機関看取り・在宅看取り・施設看取り

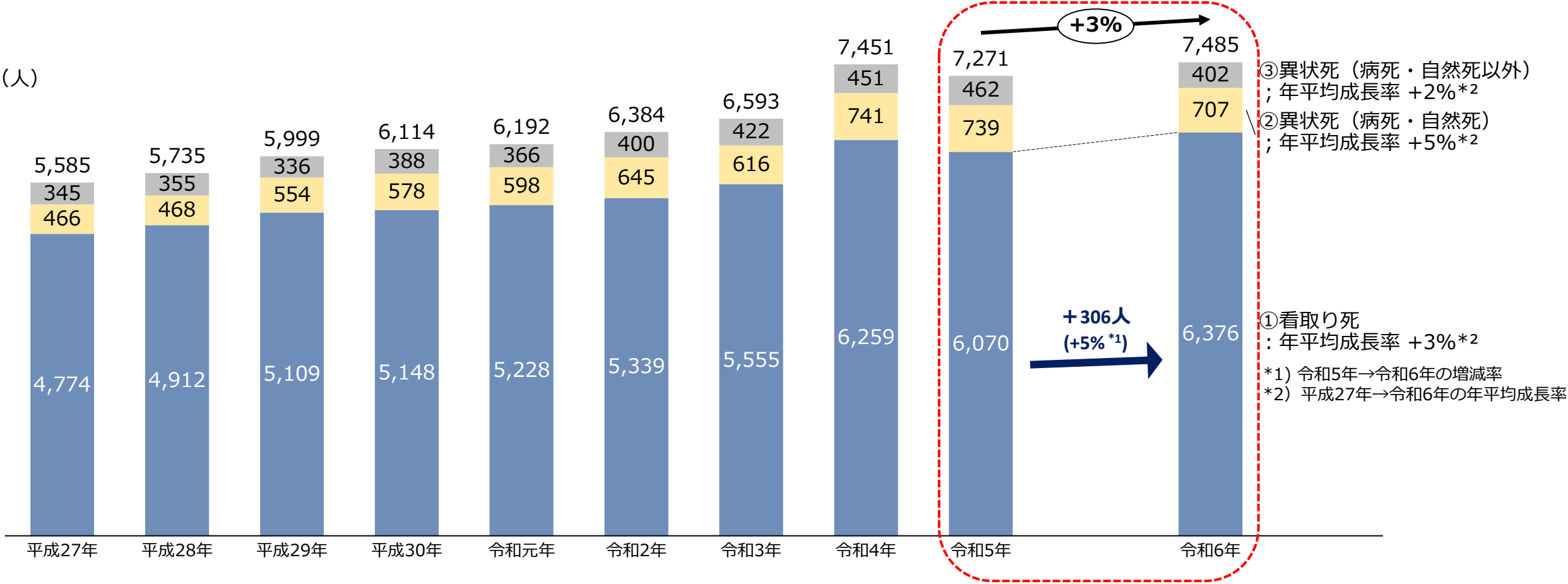
医療機関看取り：病院・診療所で死亡し、死亡診断書が発行されたもの

在宅看取り：自宅で死亡し、死亡診断書が発行されたもの

施設看取り：老人ホームや老健・介護医療院で死亡し、死亡診断書が発行されたもの

2-1. 練馬区の死亡者数：死亡分類別の経年変化（実数）

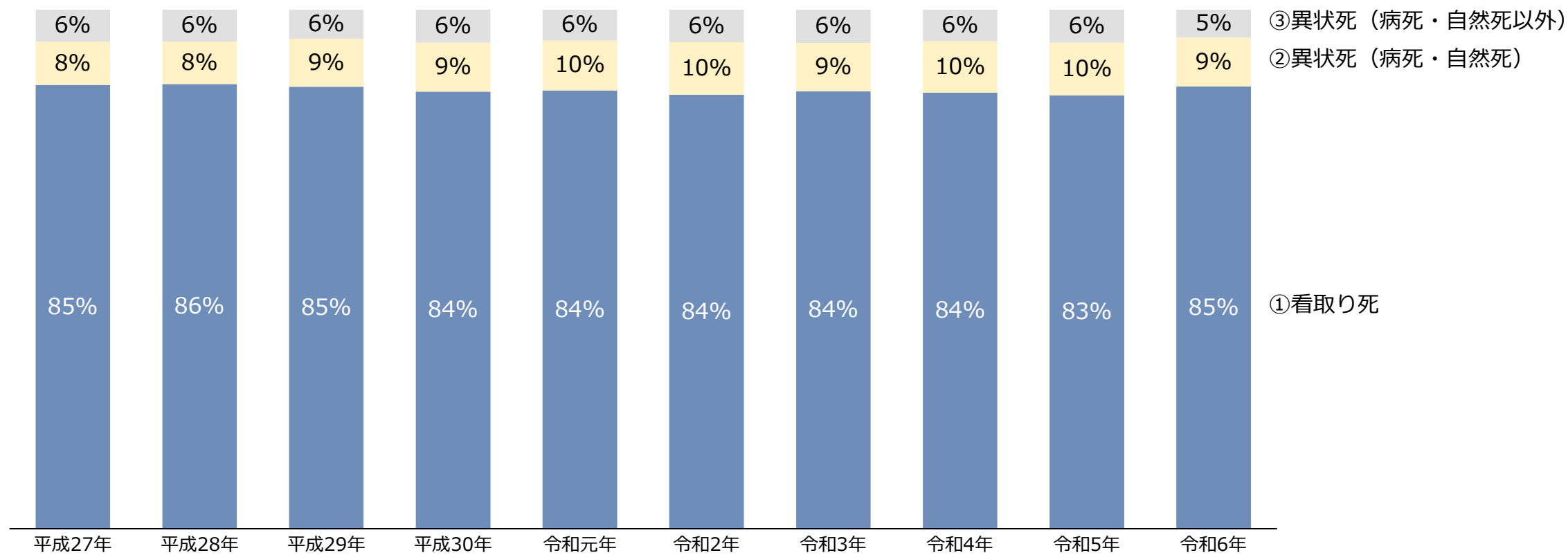
✓平成27年以降、増加で推移していた死亡者数は令和5年に減少に転じたが、令和6年は3%増加した。また、看取り死数は令和5年と比較し、令和6年は5%増加した。



看取り死：病死・自然死のうち医師（監察医・嘱託医以外）が死亡診断書を発行したもの。
異状死：看取り死以外の病死・自然死のほか、交通事故等での死のうち、監察医・嘱託医が死体検案書を発行したもの。

2-2. 練馬区の死亡者数：死亡分類別の経年変化（割合）

✓平成27年以降、看取り死数※1と異状死数※2の割合はほぼ横ばいで推移している。

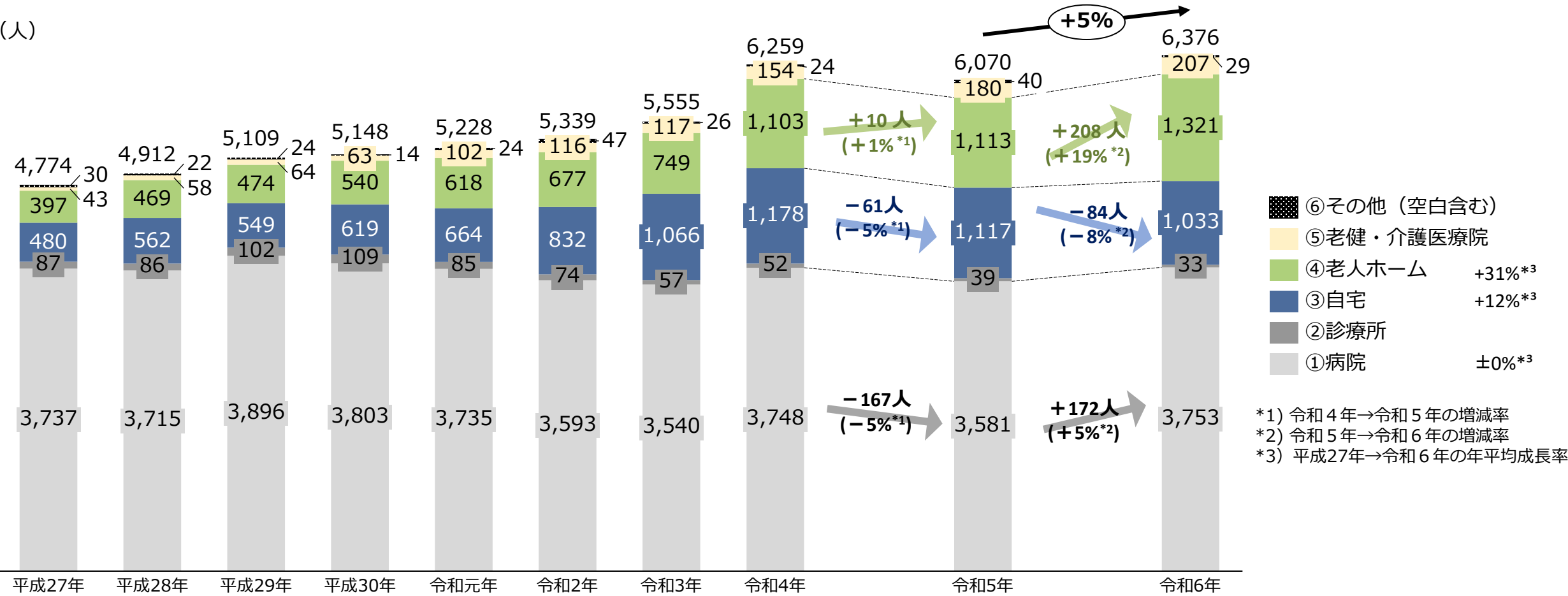


※1 看取り死：病死・自然死のうち医師（監察医・嘱託医以外）が死亡診断書を発行したもの。

※2 異状死：看取り死以外の病死・自然死のほか、交通事故等での死のうち、監察医・嘱託医が死体検案書を発行したもの

3-1. 練馬区の看取りの状況：死亡場所別の経年変化（実数）

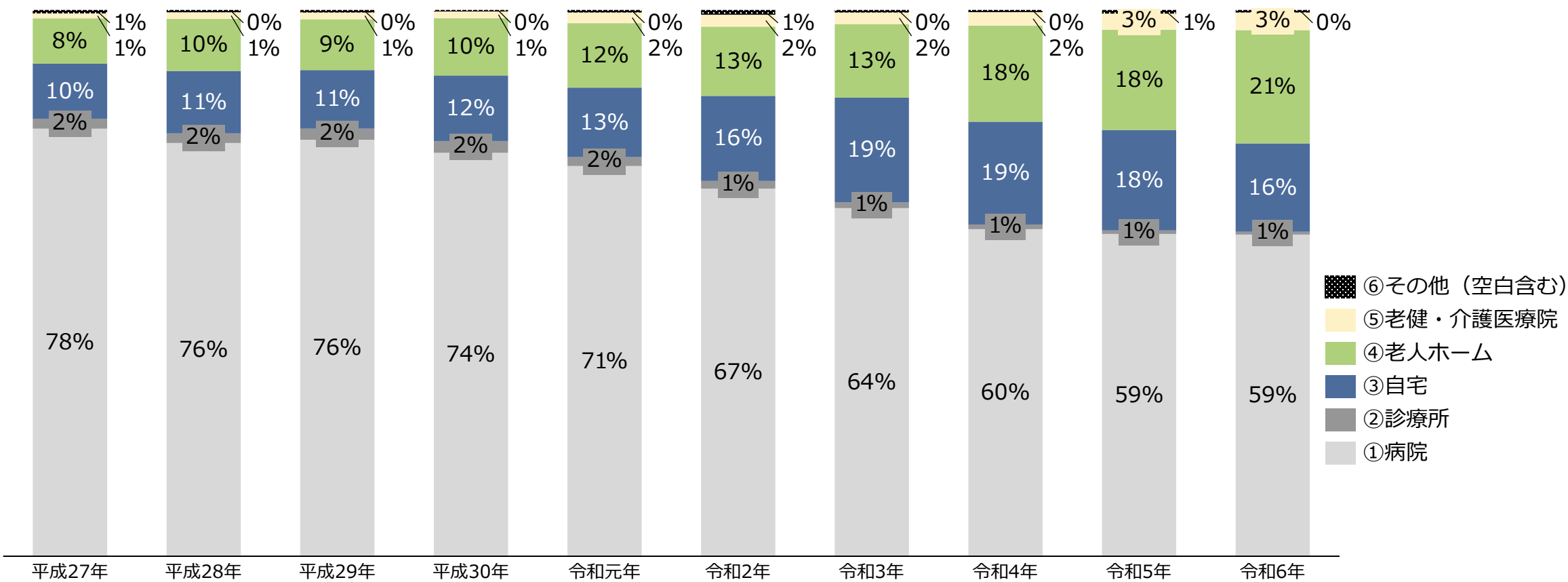
- ✓平成27年以降、増加傾向で推移していた在宅看取り数は令和4年から減少に転じており、令和5年と比較し、令和6年は8%減少した。
- ✓施設看取りのうち老人ホームでの看取り数は増加で推移しており、令和5年と比較し、令和6年は19%増加した。



「④老人ホーム」は、特別養護老人ホーム、有料老人ホーム、養護老人ホーム、軽費老人ホームなどを含む。
「⑥その他（空白を含む）」は、空白のほか、障害者支援施設、警察署、屋外施設などを含む。

3-2. 練馬区の看取りの状況：死亡場所別の経年変化（割合）

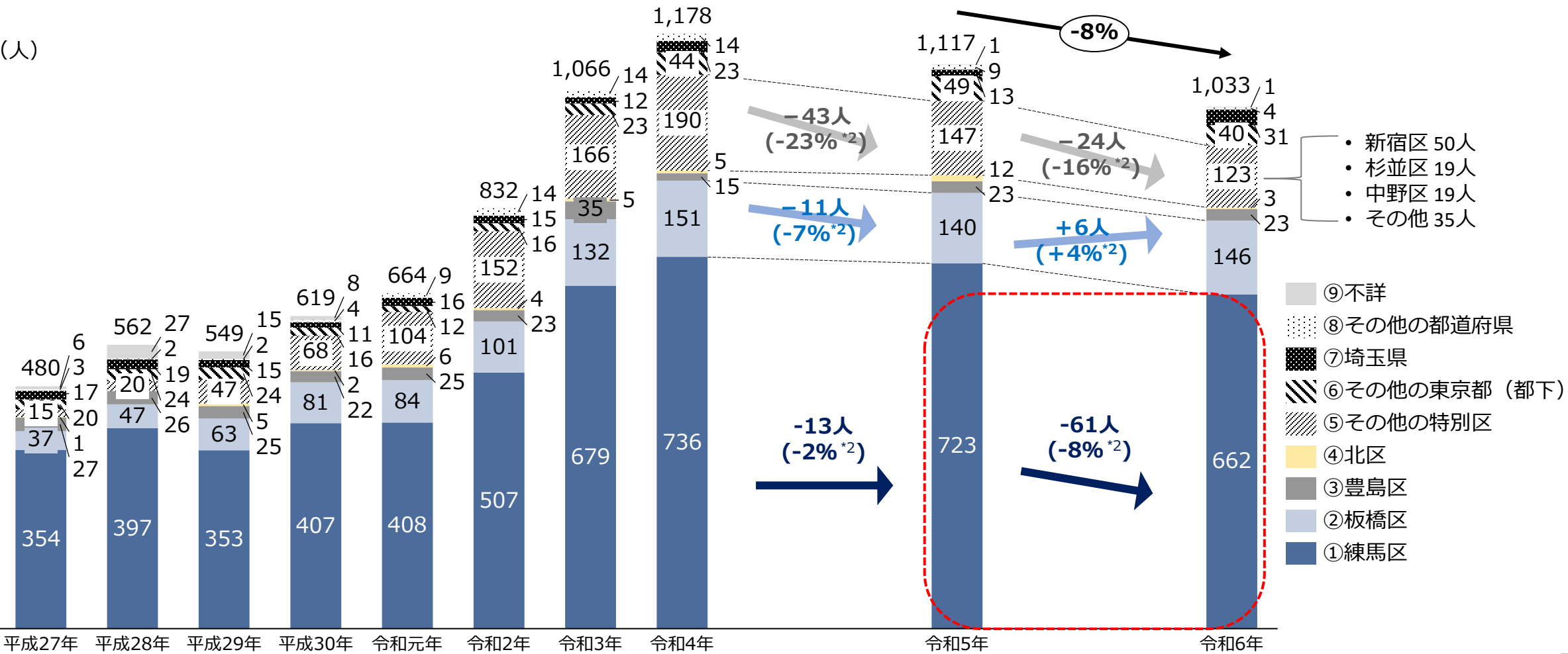
- ✓平成27年以降、病院看取り割合は減少で推移していたが、令和4年以降はほぼ横ばいで推移している。
- ✓平成27年以降、施設看取り割合のうち老人ホームでの看取り割合は在宅看取り割合を下回って推移していたが、令和5年に同率となり、令和6年は老人ホームでの看取り割合が上回った。



「④老人ホーム」は、特別養護老人ホーム、有料老人ホーム、養護老人ホーム、軽費老人ホームなどを含む。
「⑥その他（空白を含む）」は、空白のほか、障害者支援施設、警察署、屋外施設などを含む。

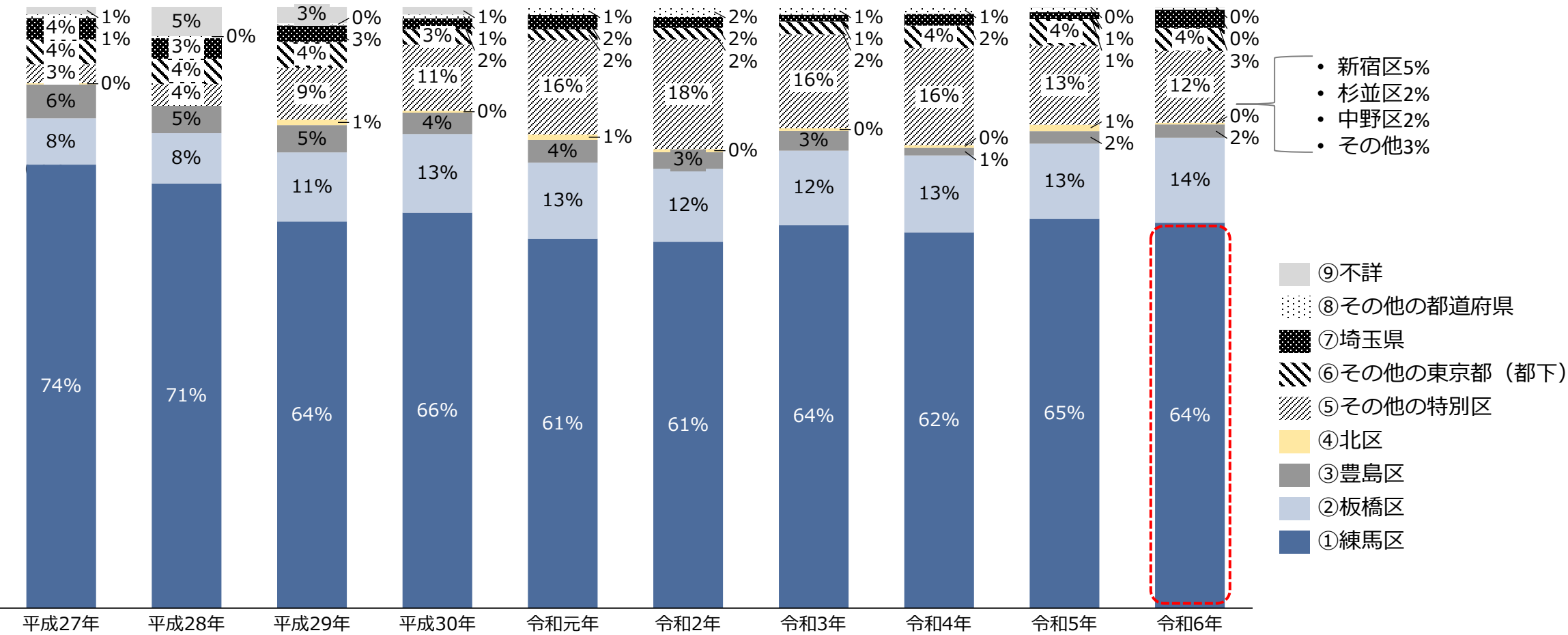
4-1. 在宅看取りの状況：医療機関所在地別の経年変化（実数）

✓平成27年以降、増加傾向で推移していた在宅看取り数は令和4年以降減少しており、令和5年と比較し、令和6年は8%減少した。また、練馬区内医療機関による在宅看取り数も8%減少した。



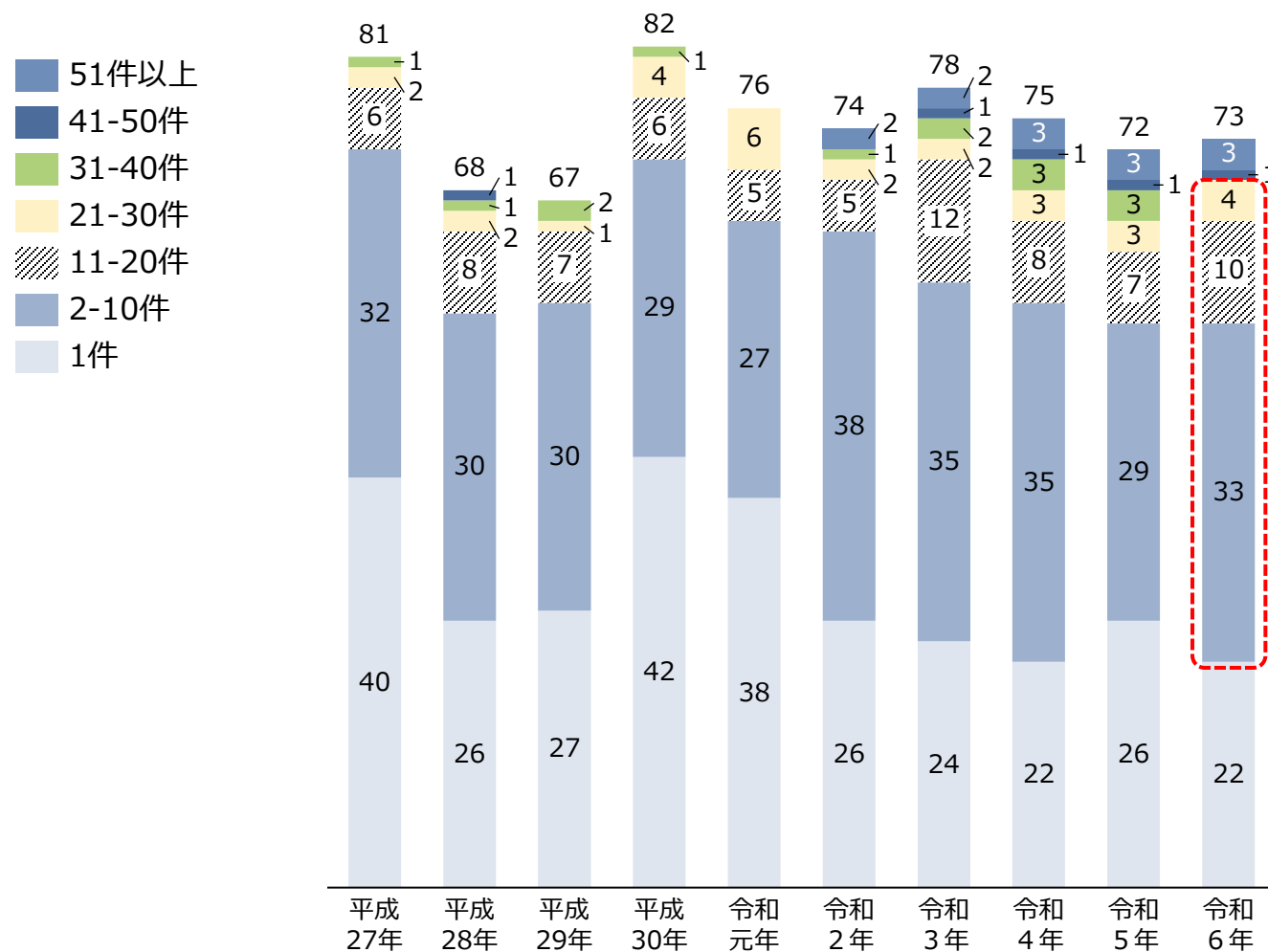
4-2. 在宅看取りの状況：医療機関所在地別の経年変化（割合）

✓令和6年の区内医療機関による在宅看取り割合は64%であり、令和元年以降ほぼ横ばいで推移している。



5-1. 年間在宅看取り数別の練馬区内医療機関数

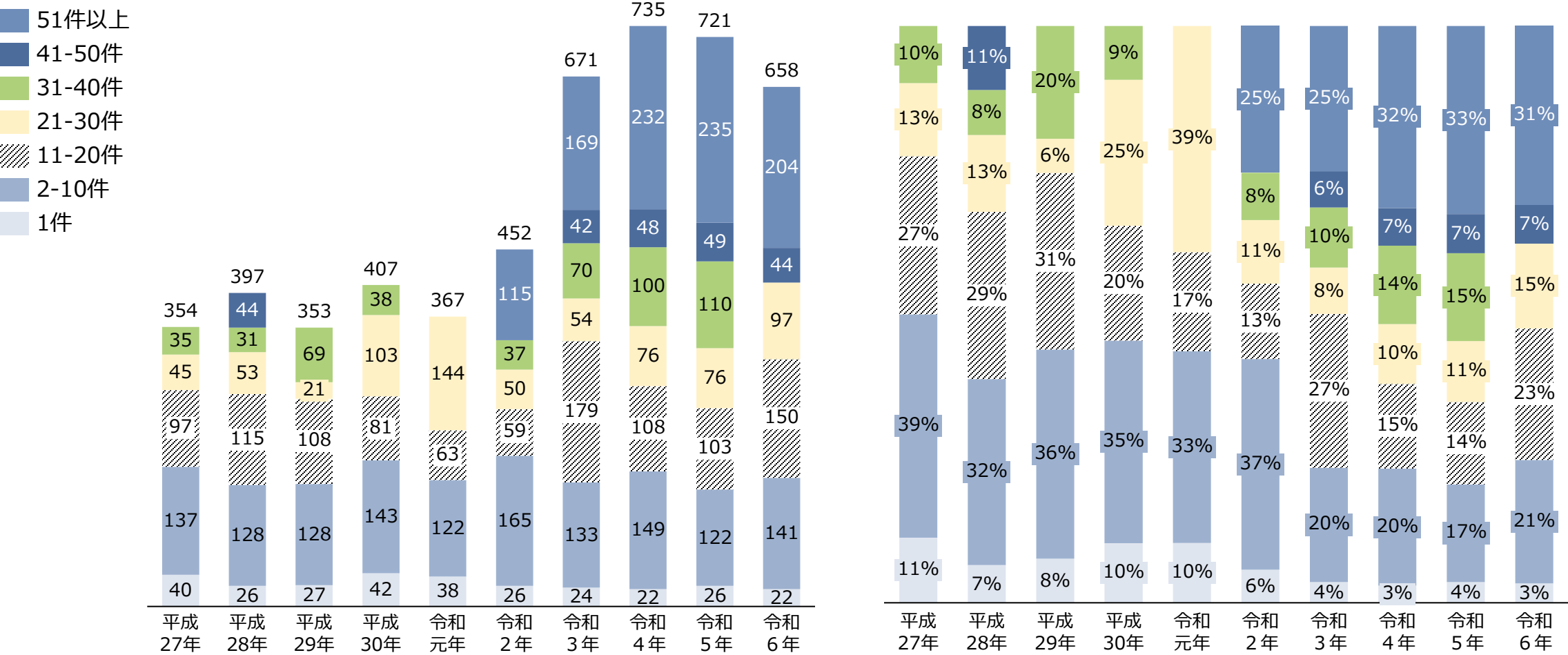
✓令和6年は、看取り数が31-40件の医療機関数が0件になった一方、2-10件、11-20件、21-30件の医療機関は増加した。



5-2. 医療機関の年間在宅看取り数区分別の看取り数と割合

✓令和6年は、看取り数が31件以上の医療機関による看取り数が減少した。一方、看取り数が2-10件、11-20件、21-30件の医療機関による看取り数は増加した。

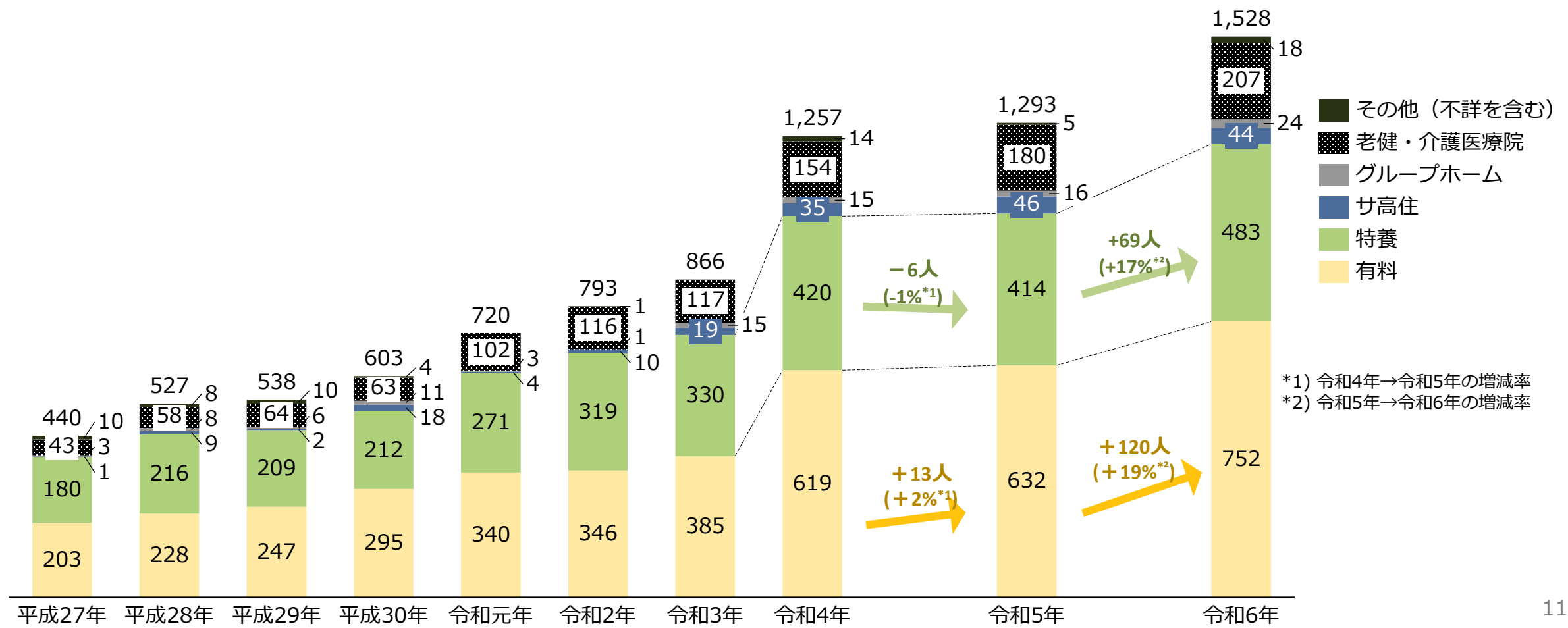
✓また割合をみると、令和5年と比較し、令和6年は看取り数が11-20件の医療機関の割合が9%増加した。



6-1. 施設看取り（老健・介護医療院含む）_死亡場所別の看取り数の経年変化（実数）

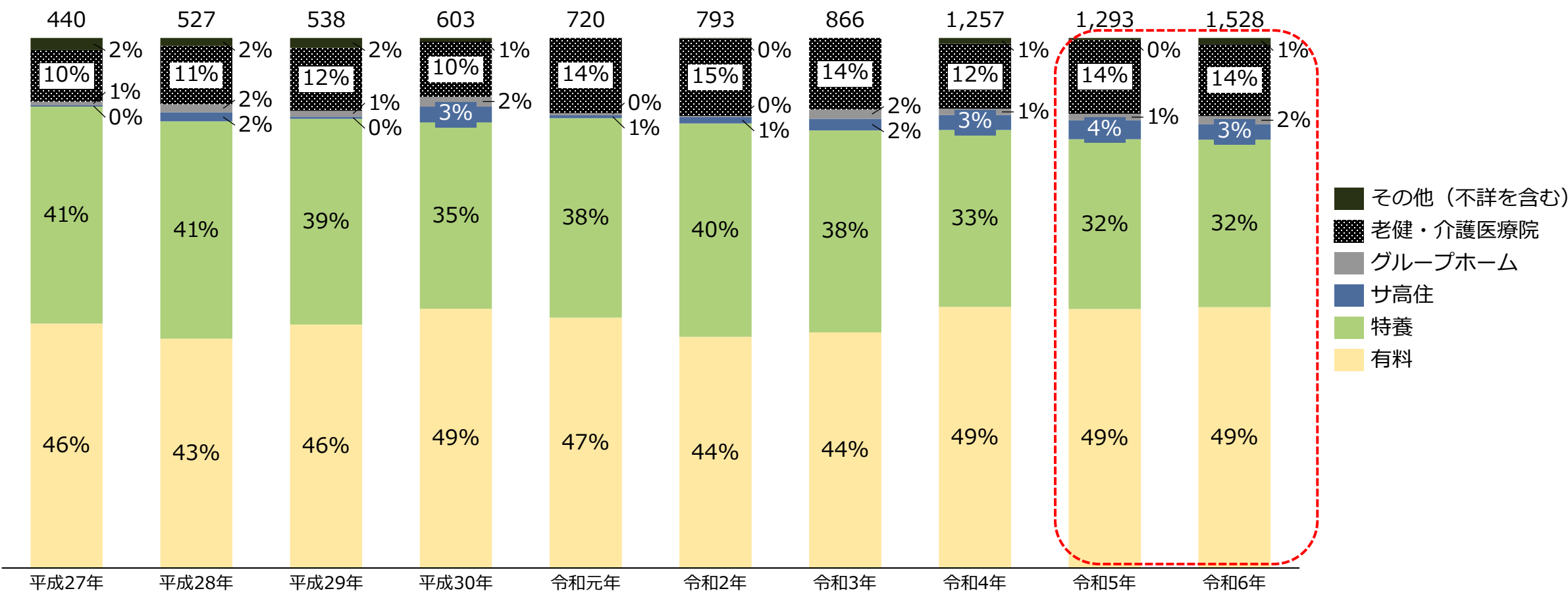
✓令和4年と令和5年は有料老人ホームと特別養護老人ホームの看取り数はほぼ横ばいだったが、令和5年と比較し、令和6年は有料が19%、特養が17%増加と顕著な伸びを示した。

(人)



6-2. 施設看取り（老健・介護医療院含む）_死亡場所別の看取り数の経年変化（割合）

✓令和5年と比較し、令和6年は施設種別による看取り割合に大きな変化はなかった。

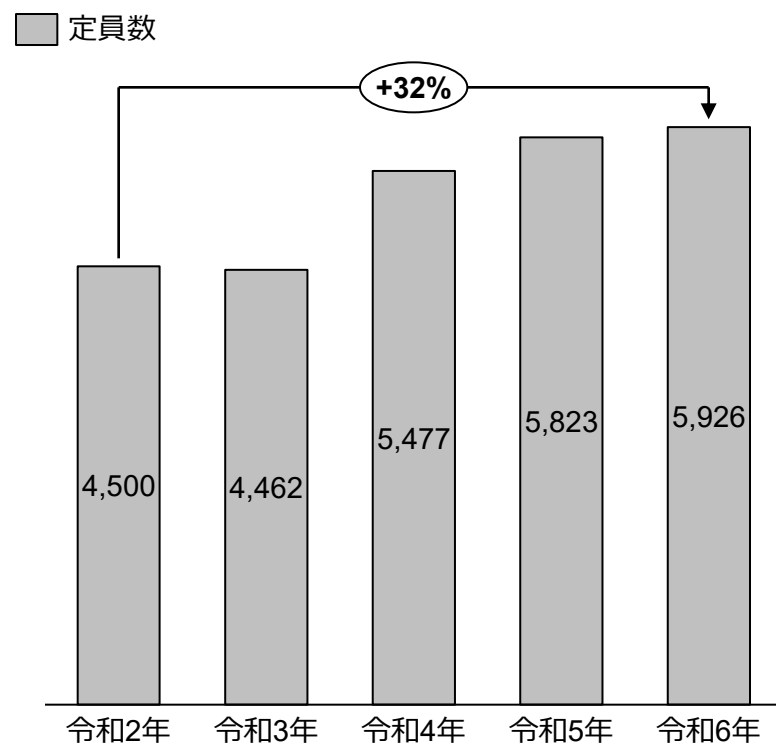


「老人ホーム」は、特別養護老人ホーム、有料老人ホーム、養護老人ホーム、軽費老人ホームなどを含む。
「その他（空白を含む）」は、空白のほか、障害者支援施設、警察署、屋外施設などを含む。

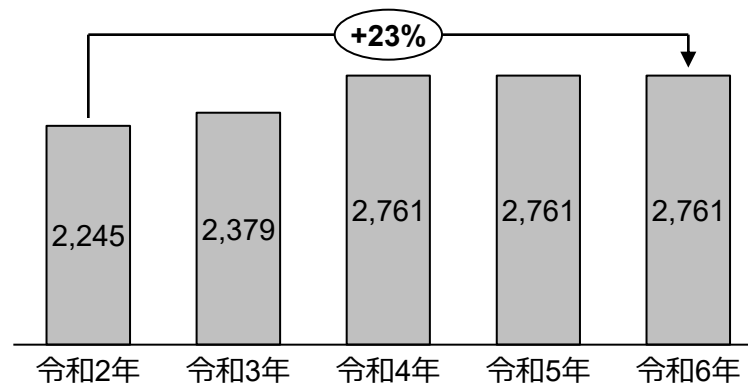
【参考】施設機能別_定員数の推移（直近5年比較）

- ✓ 令和2年から令和6年にかけて有料の定員数は32%増加、特養の定員数は23%増加した。
- ✓ 老健・介護医療院は令和2年以降一定だった。

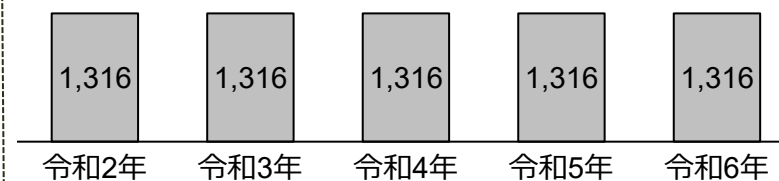
有料老人ホーム



特別養護老人ホーム

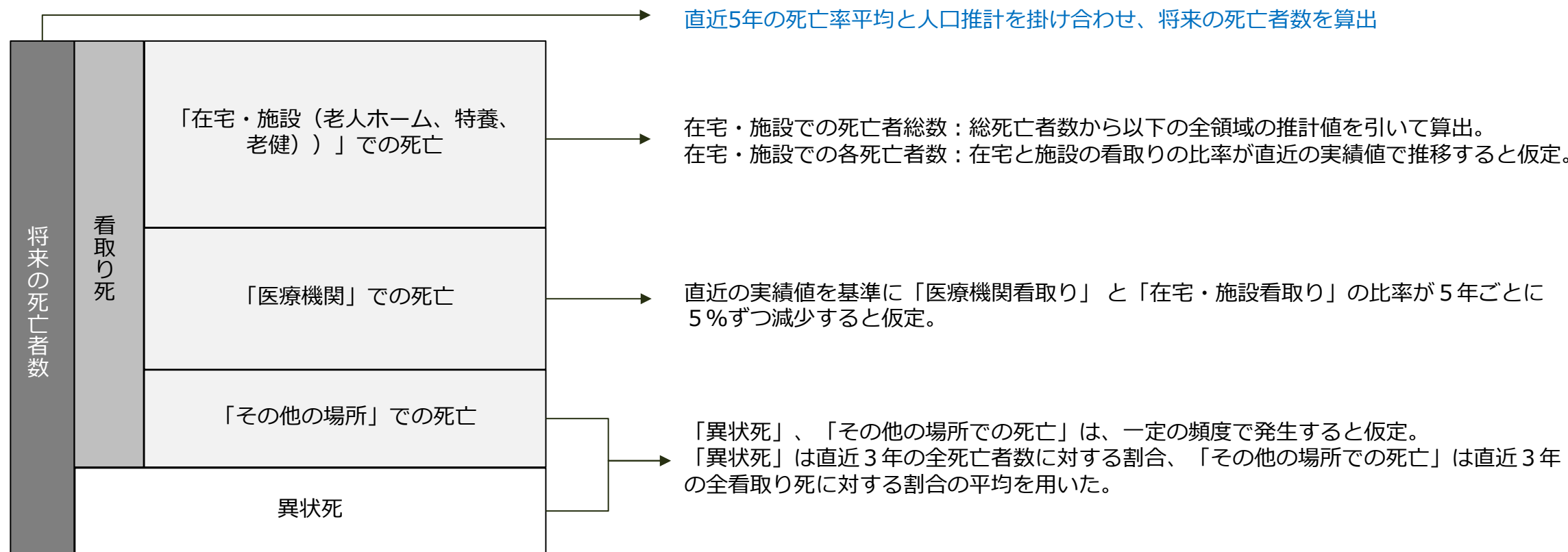


介護老人保健施設・介護医療院



7-1. 将来推計方法

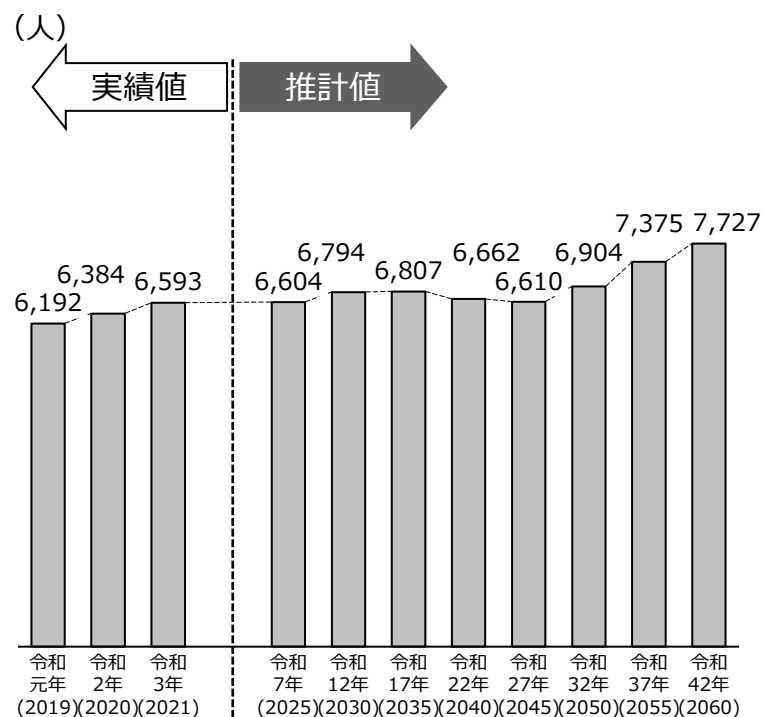
- ✓ 将来の死亡者総数に関する推計は推計方法を変更し、将来の死亡場所別の死亡者数に関する推計は昨年度と同様の方法で実施した。



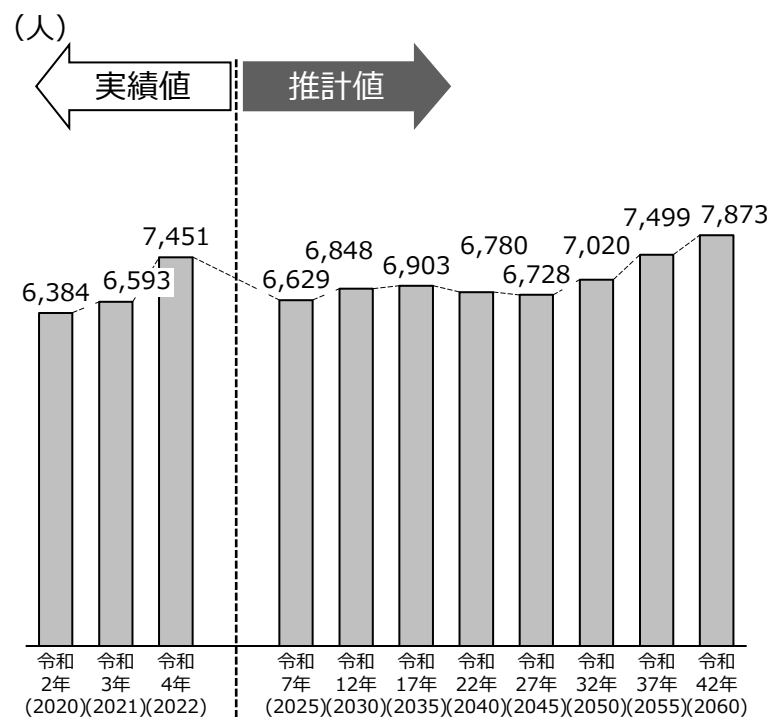
【参考】生残率を用いた死亡者数の将来推計

✓近年の死亡者数の急増により、令和4年から、当年の実績値を下回る試算が出るようになっていた。今回の試算でも同様だった。

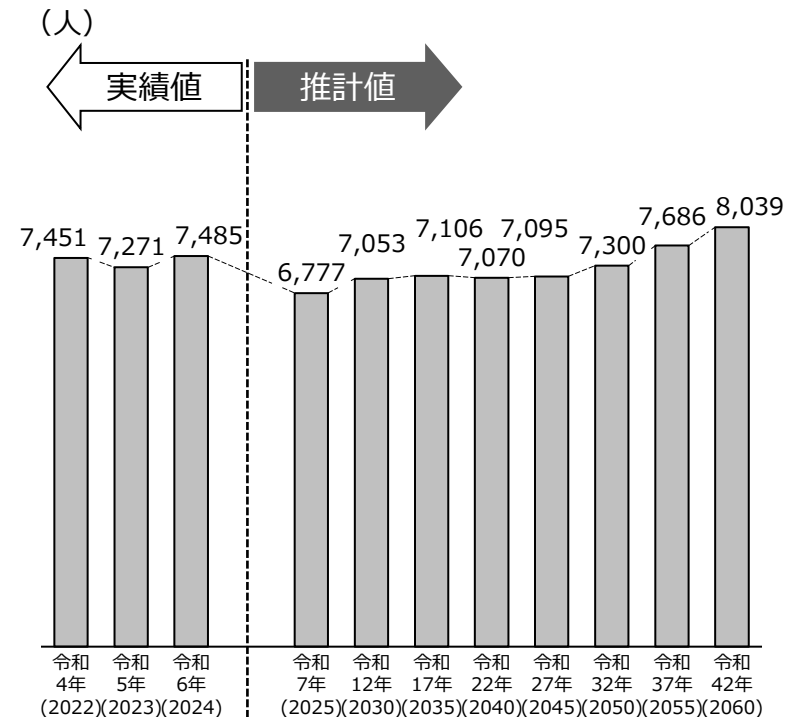
令和3年の死亡者数推計*1



令和4年の死亡者数推計*1



令和6年の死亡者数推計*2

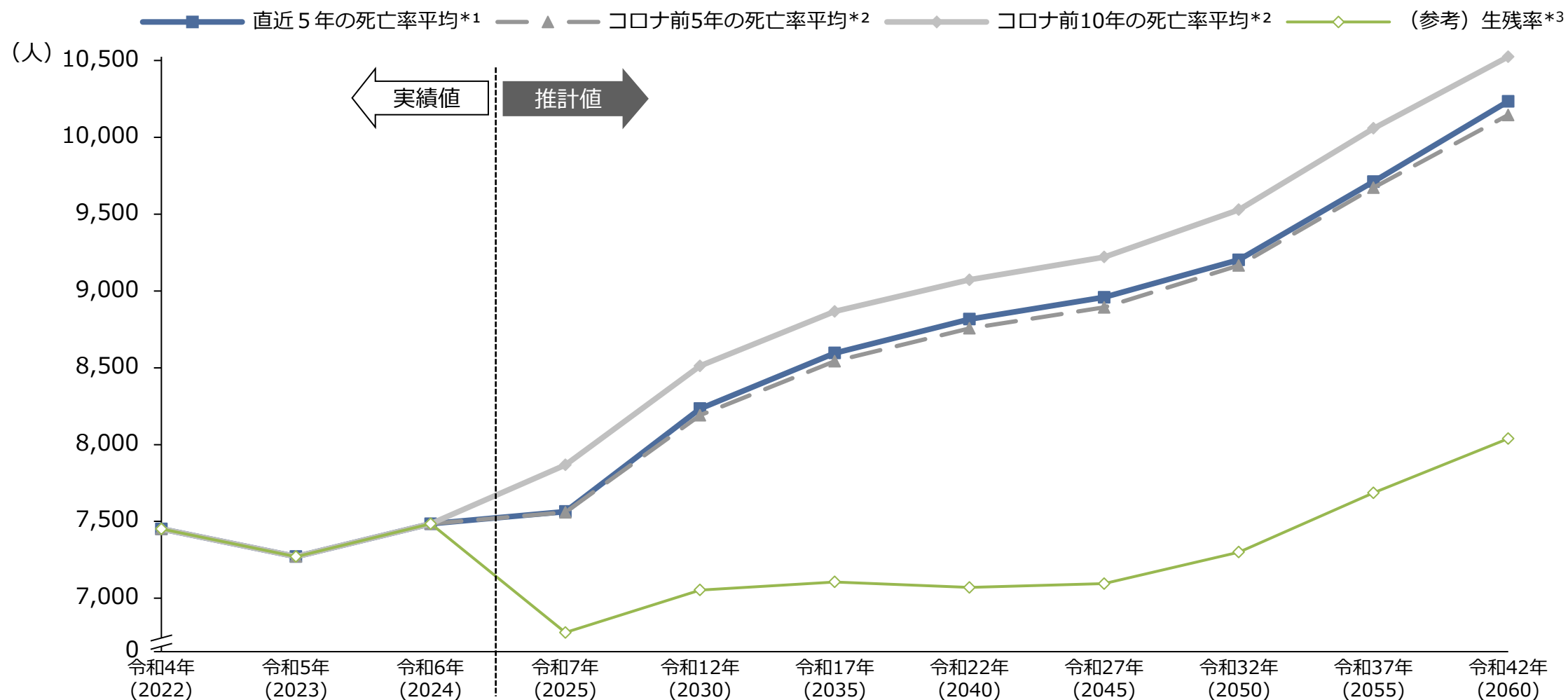


*1 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30年推計）」の生残率・練馬区人口ビジョンの将来人口推計をもとに試算

*2 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和6年推計）」の生残率・練馬区人口ビジョンの将来人口推計をもとに試算

【参考】練馬区における死亡者数将来推計のパターン比較

✓将来推計について、複数のパターンを検討し、今年度は直近5年の死亡率平均によって試算した。



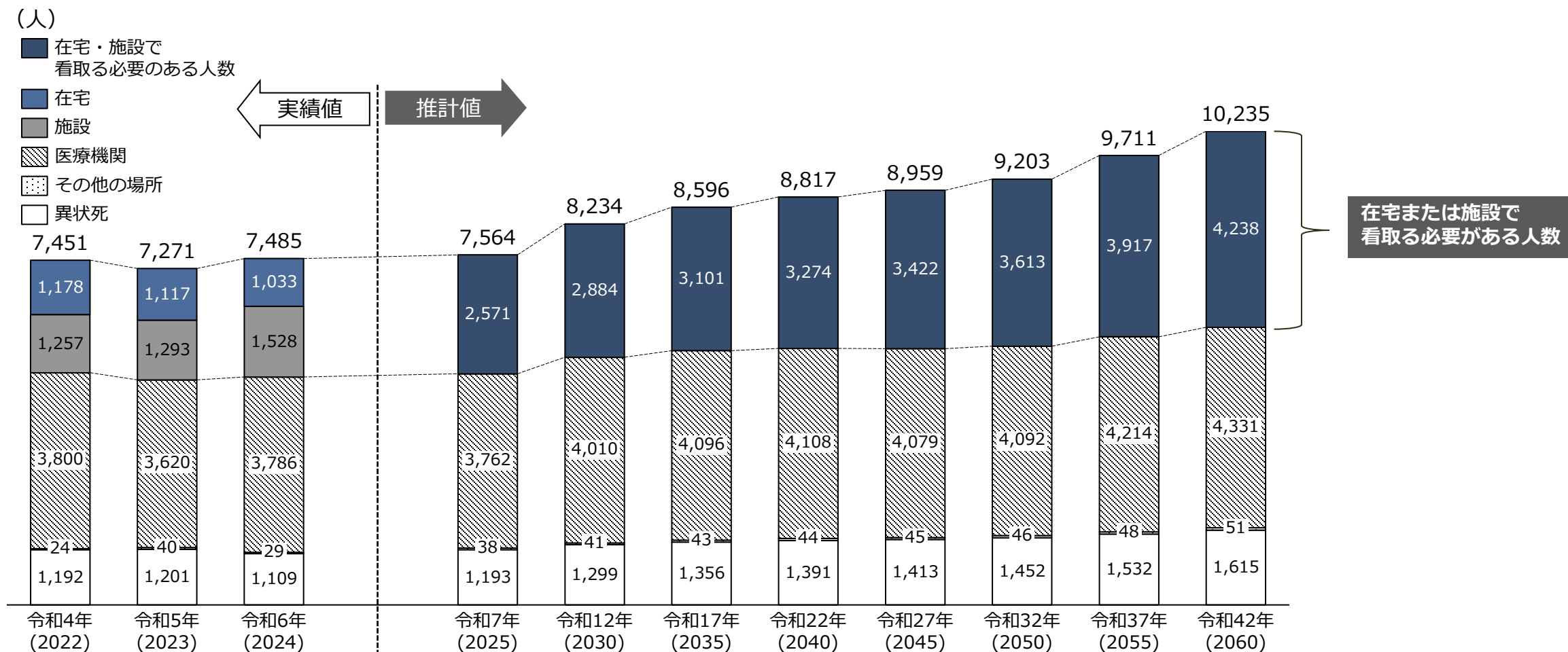
*1練馬区「死亡小票分析」・練馬区HP「世帯と人口（人口統計）」・練馬区人口ビジョンの将来人口推計をもとに試算

*2厚生労働省「死亡動態調査」・練馬区HP「世帯と人口（人口統計）」・練馬区人口ビジョンの将来人口推計をもとに試算

*3 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和6年推計）」の生残率・練馬区人口ビジョンの将来人口推計をもとに試算

7-2. 死亡者数の将来推計

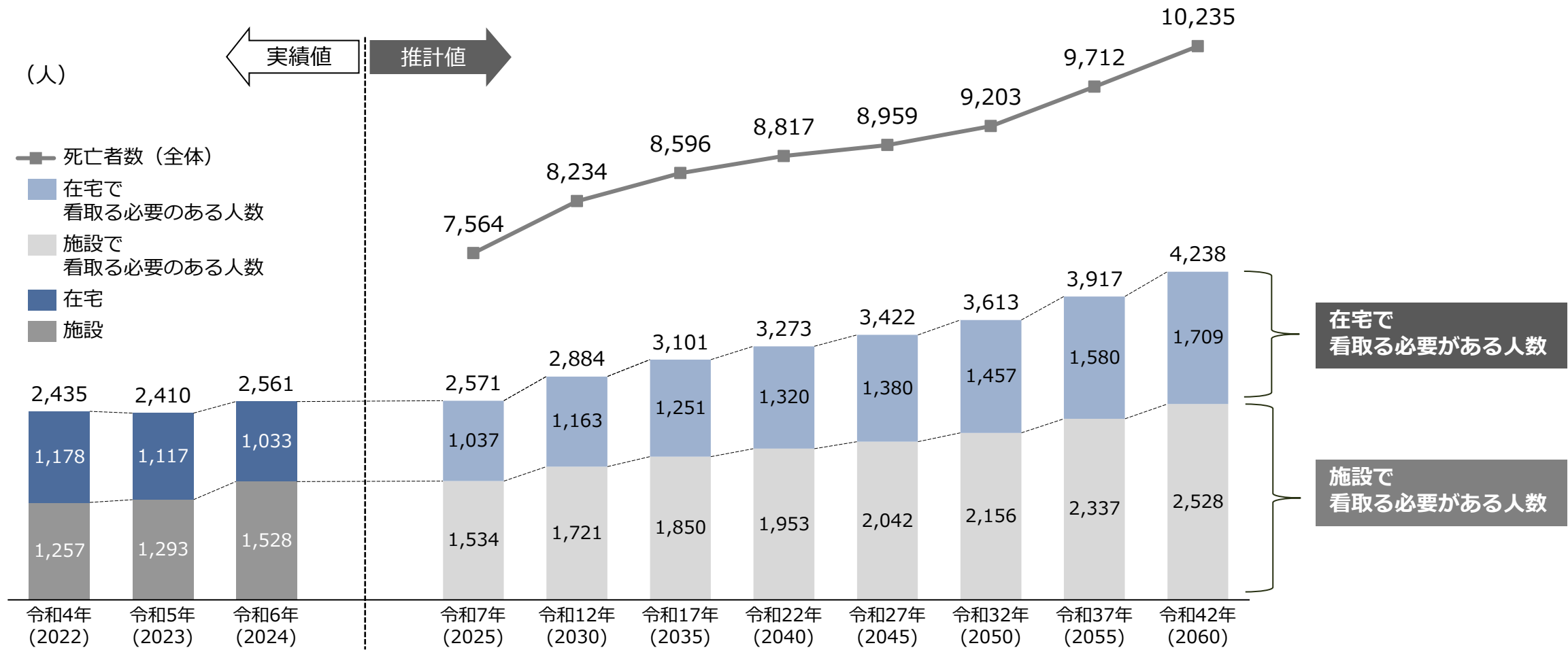
✓後期高齢者人口がピークを迎える令和37年（2055年）頃には、在宅または施設で看取る必要がある人数は3,917人になると推計される。



出所：練馬区「死亡小票分析」・練馬区HP「世帯と人口（人口統計）」・練馬区人口ビジョンの将来人口推計をもとに試算

7-3. 在宅・施設での看取り件数の将来推計

✓後期高齢者人口がピークを迎える令和37年（2055年）頃には、在宅では1,580人を、施設では2,337人を看取る必要があると推計される。

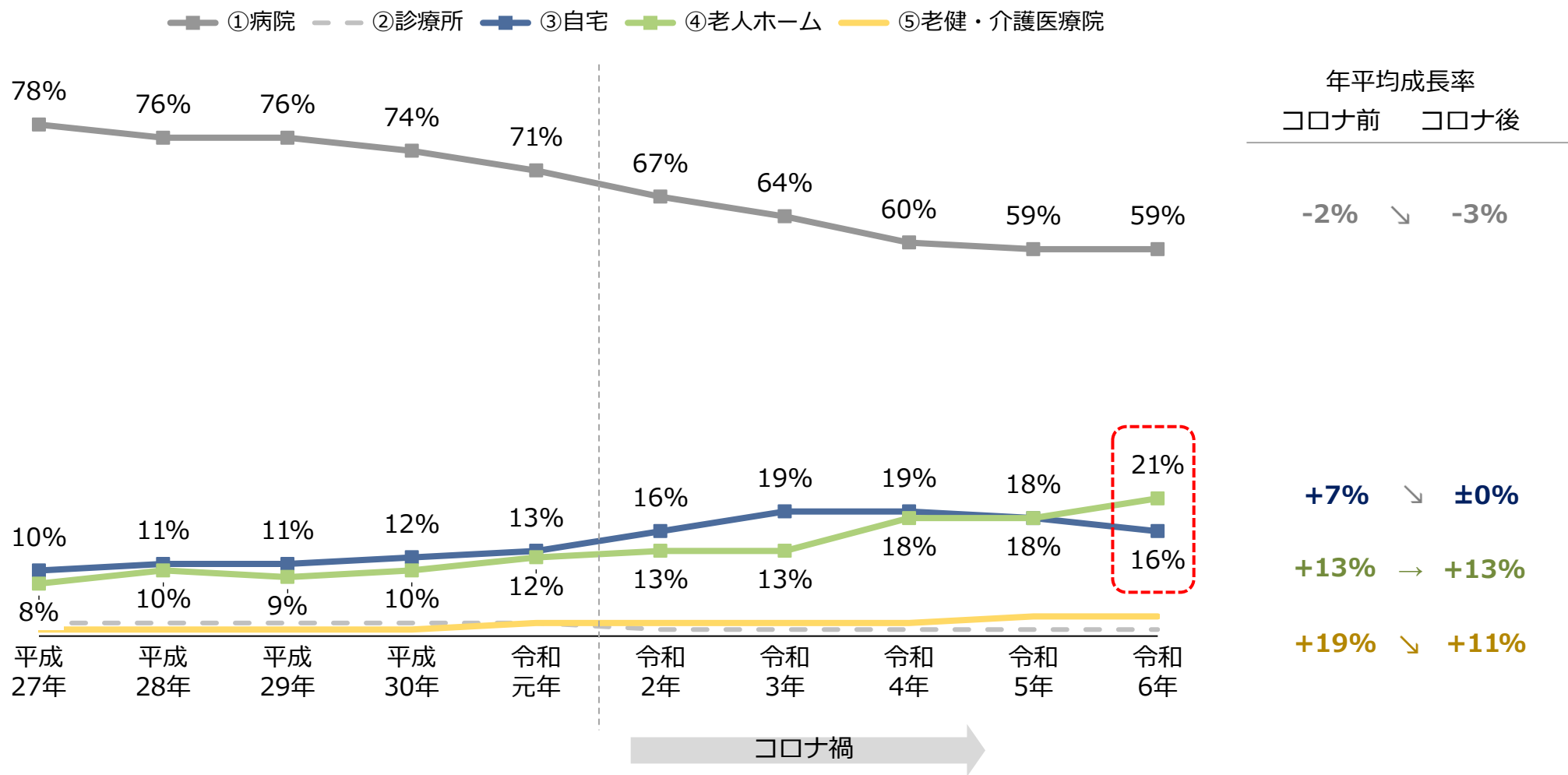


出所：練馬区「死亡小票分析」・練馬区HP「世帯と人口（人口統計）」・練馬区人口ビジョンの将来人口推計をもとに試算

参考資料

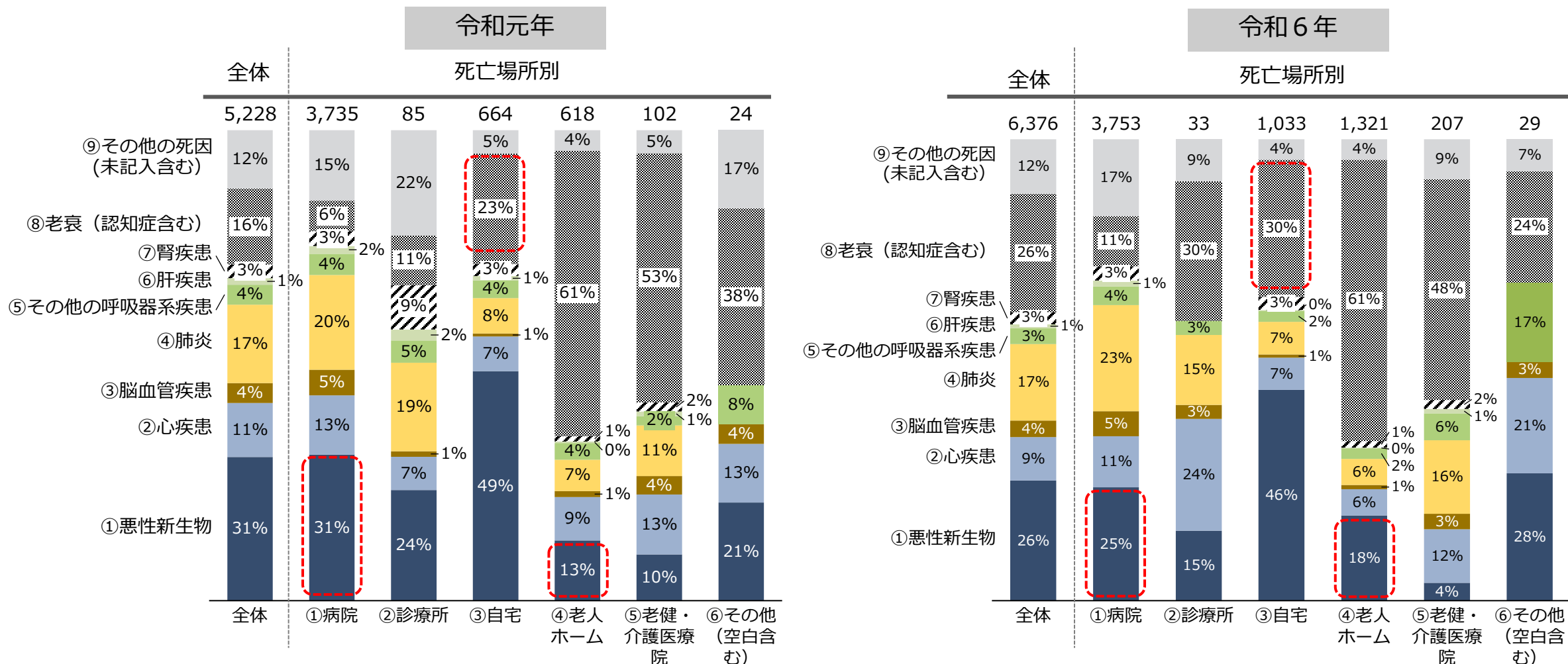
【参考】看取り場所の変化

- ✓平成27年からの変化をみると、病院から自宅および施設での看取りに移行しつつある。
- ✓平成27年以降、施設看取りのうち老人ホームでの看取り割合が在宅看取り割合を下回って推移していたが、令和5年に同率となり、令和6年は老人ホームでの看取り割合が上回った。



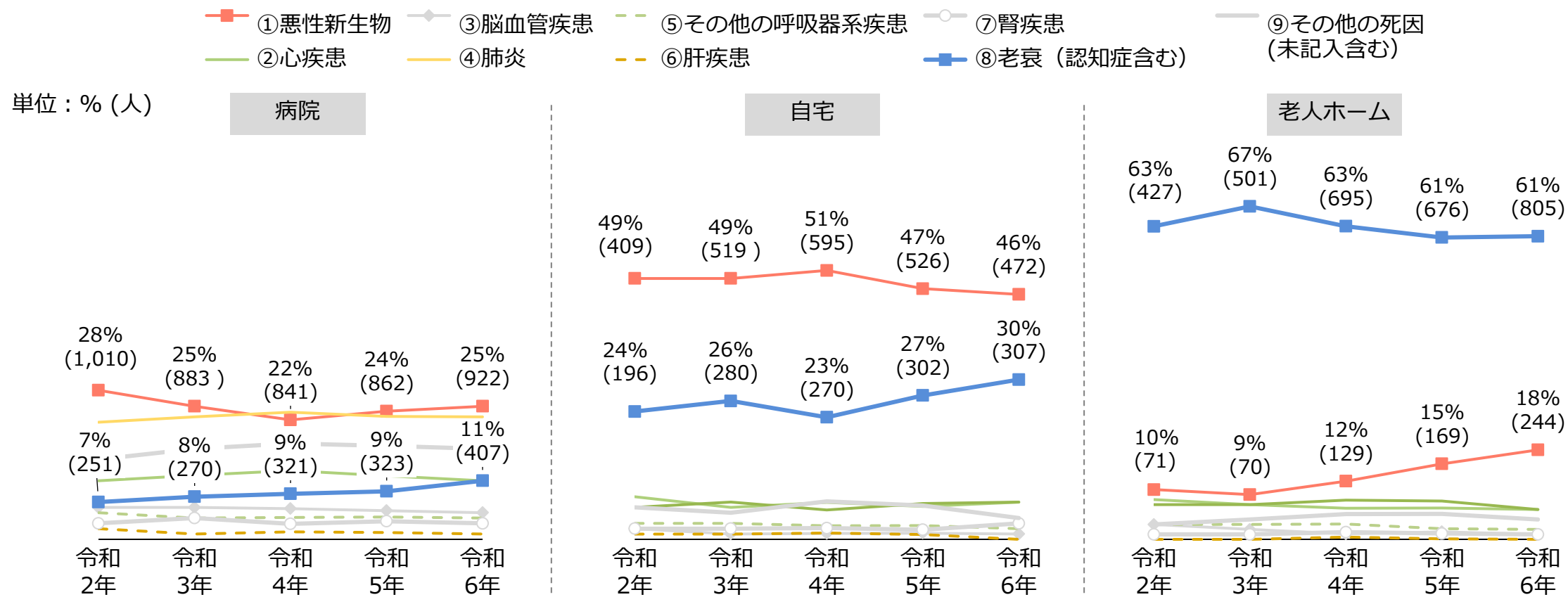
【参考】死亡場所別の死因の変化（令和元年・令和6年）

✓令和元年と令和6年を比較すると、病院における悪性新生物の看取り割合は6%減少した。また、自宅における老衰の看取り割合は7%増加、老人ホームにおける悪性新生物の看取り割合は5%増加した。



【参考】看取り場所別の死因別看取り患者の変化（直近5年比較/実数と割合）

- ✓令和2年からの変化をみると、病院において、悪性新生物は令和4年以降減少から増加に転じ、老衰は増加で推移している。
- また、自宅において、悪性新生物は令和4年以降増加から減少に転じた。
- ✓老人ホームにおいて、悪性新生物、老衰の看取り数は増加傾向で推移しており、悪性新生物の割合は増加している。

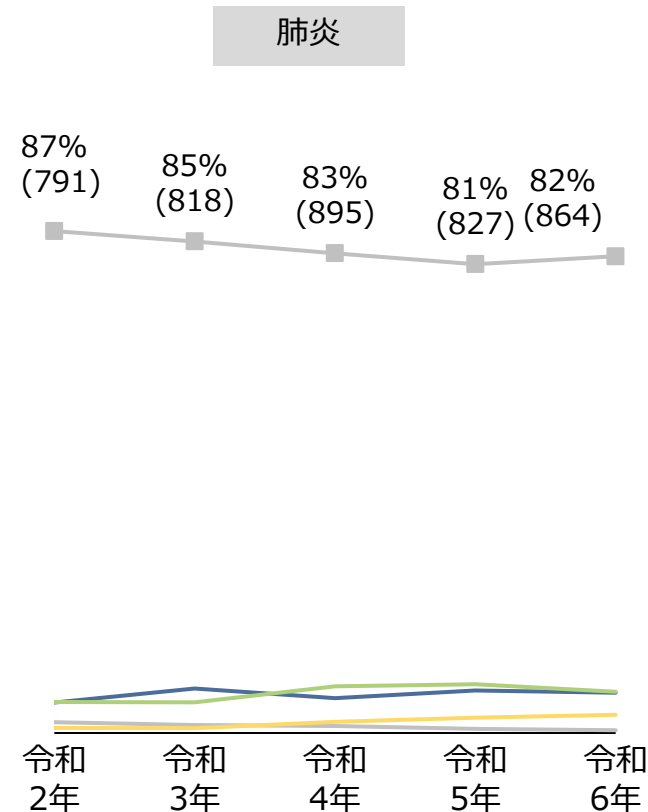
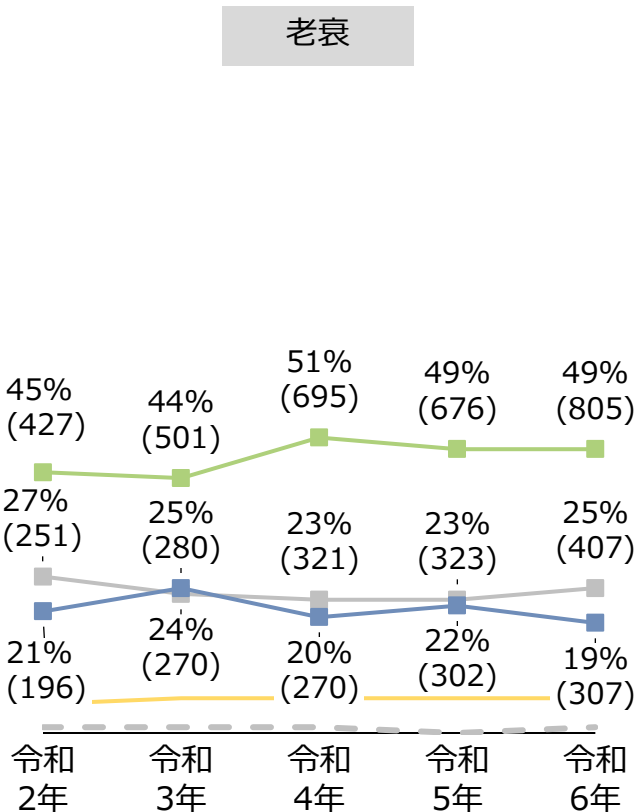
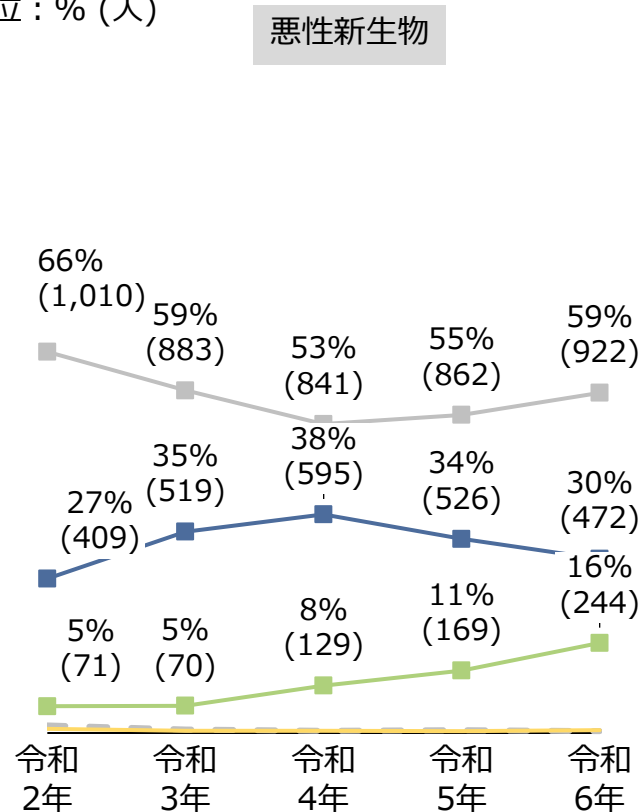


【参考】死因別の看取り場所別看取り患者の変化（直近5年比較/実数と割合）

- ✓令和2年からの変化を見ると、令和4年以降悪性新生物の看取り数、割合ともに病院と老人ホームで増加したが、自宅では減少している。また、老衰の看取り数は老人ホームで増加したが、割合は令和2年から増加し、近年は50%前後で推移している。
- ✓肺炎の看取り数は病院で増減はあるものの、割合は80%以上を占めている。

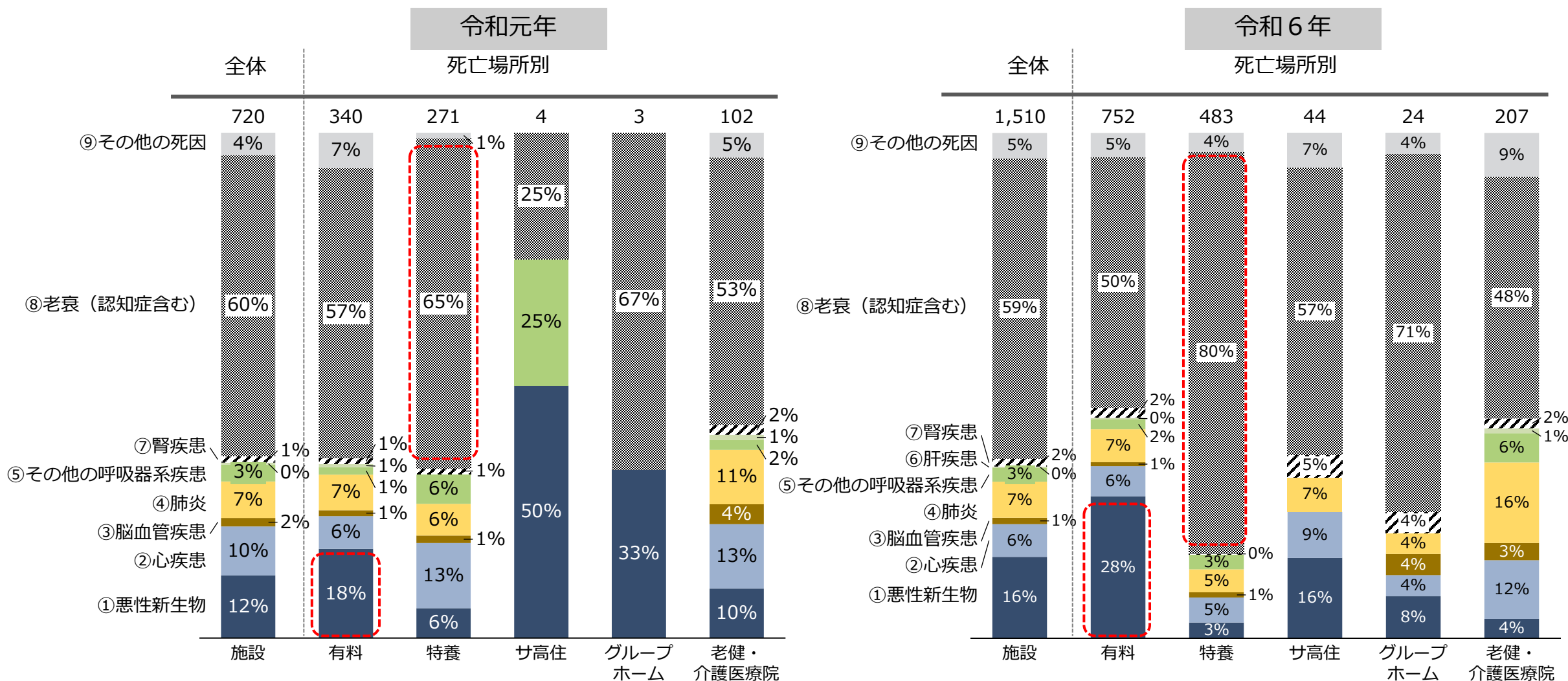
■ ①病院 ■ ②診療所 ■ ③自宅 ■ ④老人ホーム ■ ⑤老健・介護医療院

単位：%（人）



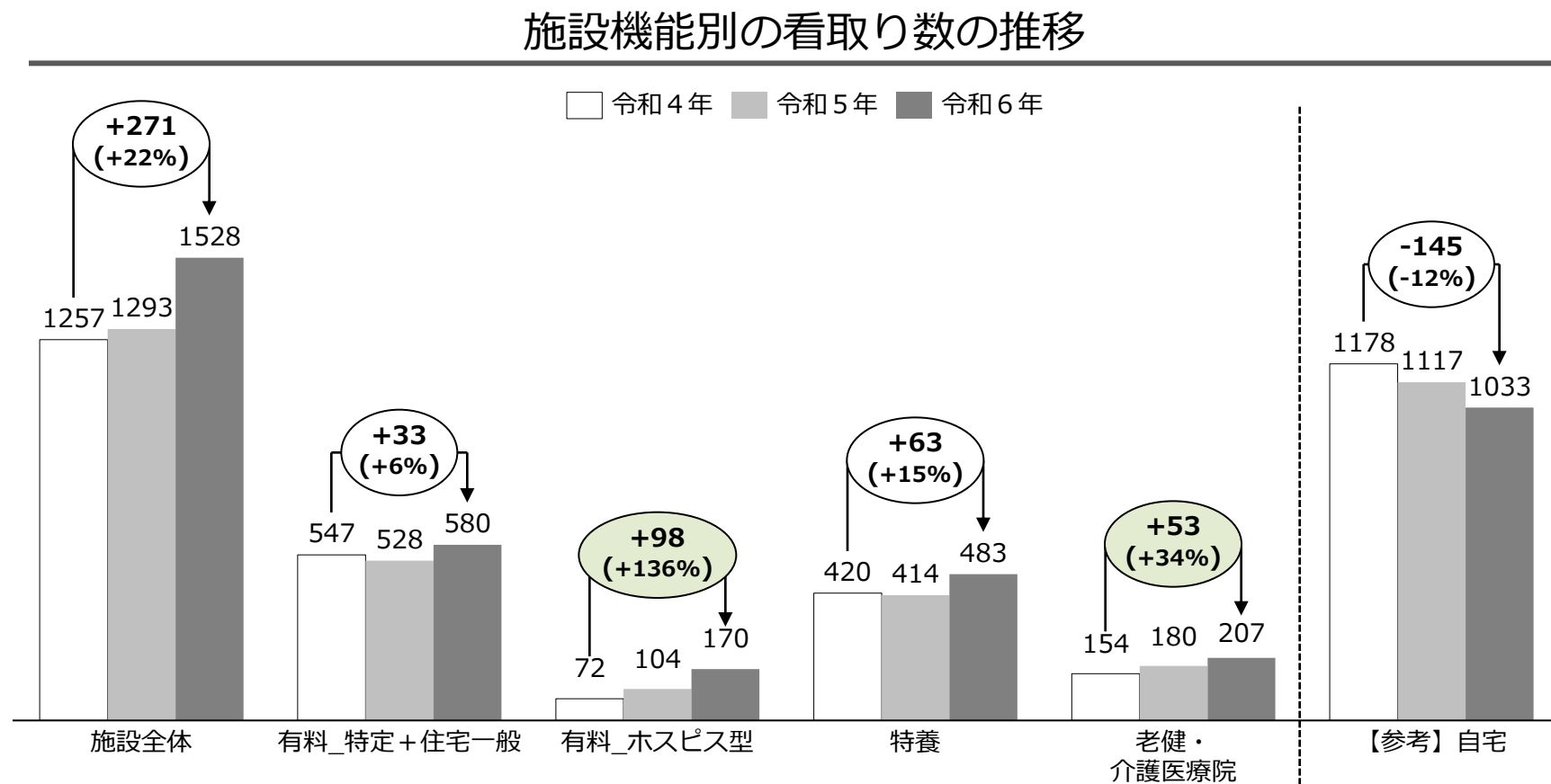
【参考】施設看取り（老健・介護医療院含む）_死因の変化（令和元年・令和6年）

✓令和元年と令和6年を比較すると、施設看取り割合は、有料では悪性新生物が10%増加、特養では老衰が15%増加した。



【参考】施設の機能別_看取り数の推移（直近3年比較）

- ✓ 令和4年からの変化を見ると、すべての施設において看取り数が増加しており、特にホスピス型有料老人ホーム、老健・介護医療院が増加している。



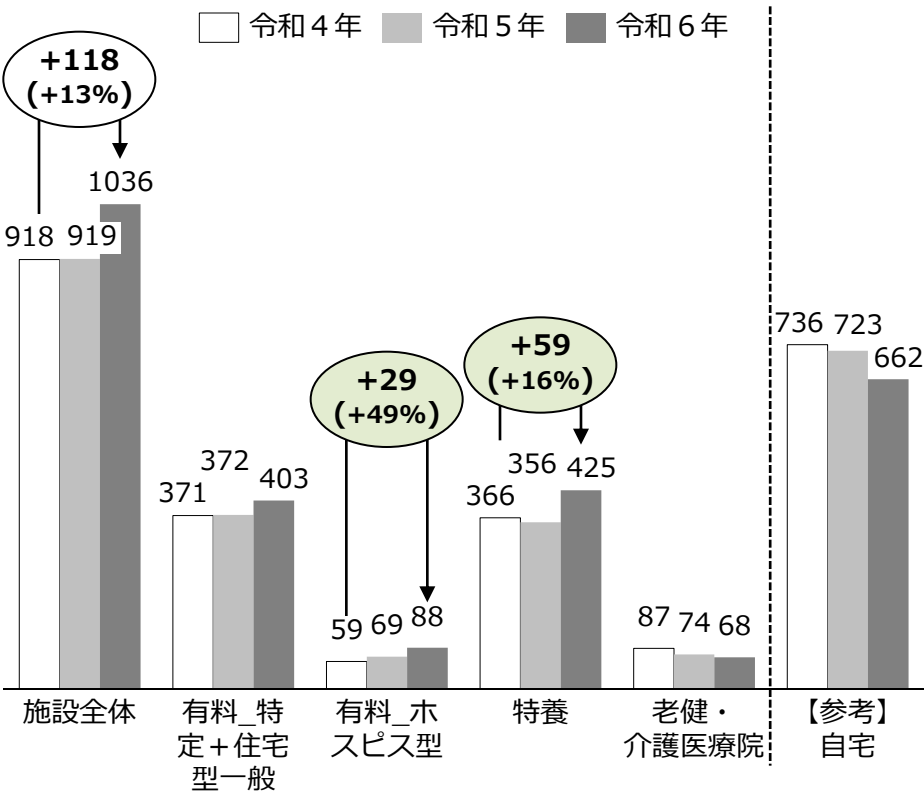
※ホスピス型とは、ターミナルケア特化/ホスピス型と明示されている住宅型有料老人ホームを指す

※ 施設全体には、サ高住、グループホームの数値を含む。

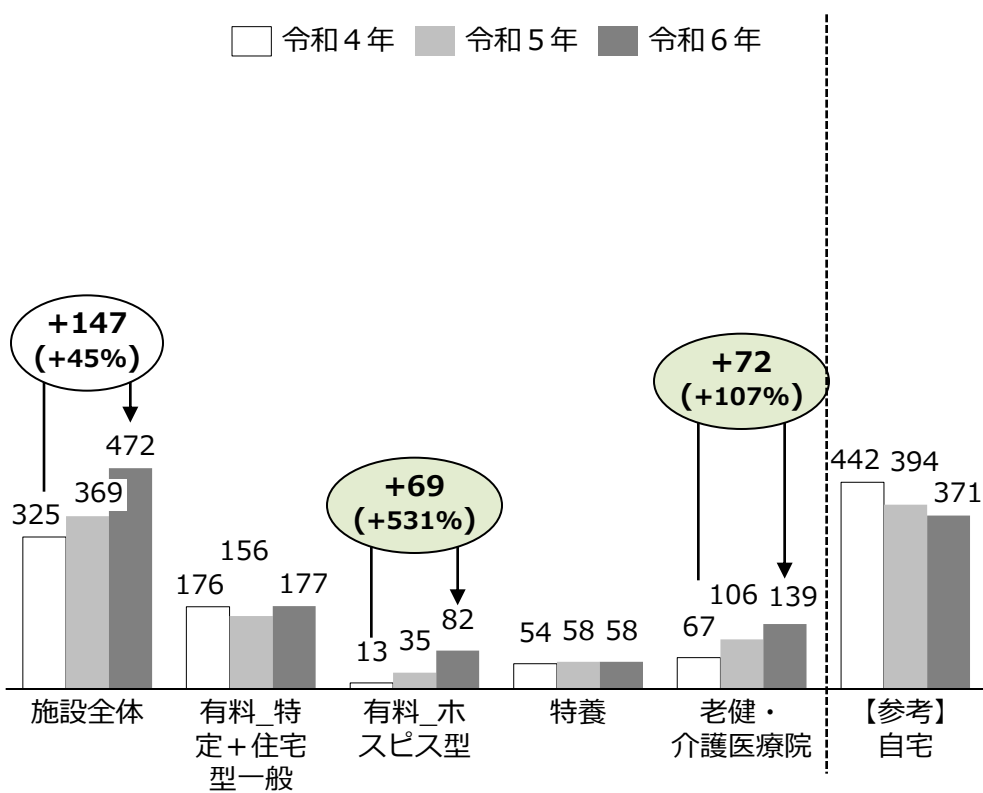
【参考】施設機能別_看取り数の推移（直近3年比較／区内・区外別）

- ✓ 近年の施設看取り数の増加は区外施設の影響を受けており、ホスピス型有料老人ホーム、老健・介護医療院の看取り数が増加している。一方、区内は、ホスピス型有料老人ホームと特養の看取り数が増加している。

区内施設における機能別看取り数の推移



区外施設における機能別看取り数の推移



※ホスピス型とは、ターミナルケア特化/ホスピス型と明示されている住宅型有料老人ホームを指す
※ 施設全体には、サ高住、グループホームの数値を含む。

【参考】練馬区と世田谷区における人口・医療介護関連施設の状況比較

分類	詳細	練馬区	世田谷区
人口*1*2		741,540名	918,141名
高齢化率*2	65歳以上(総人口に占める割合)	22.0%	20.5%
	75歳以上(総人口に占める割合)	12.6%	11.6%
病床数*3	合計	2430	4226
	高度急性期	114	99
	急性期	1289	2661
	回復期	457	680
	慢性期	570	786
在支診・在支病 (施設数)*4	合計	80か所	146か所
	機能強化型の在支診・在支病	37か所	59か所
	機能強化型以外の在支診・在支病	43か所	87か所
施設 (施設数/施設定員数)*2	合計	185か所/10,340	216か所/10,893
	特別養護老人ホーム	37か所/2,761	29か所/2,168
	有料老人ホーム	86か所/5,821	98か所/5,781
	サービス付き高齢者向け住宅	24か所/1,087	40か所/2,026
	グループホーム	38か所/671	49か所/918

*1:練馬区・世田谷区ともに人口の中に外国人も含まれる。

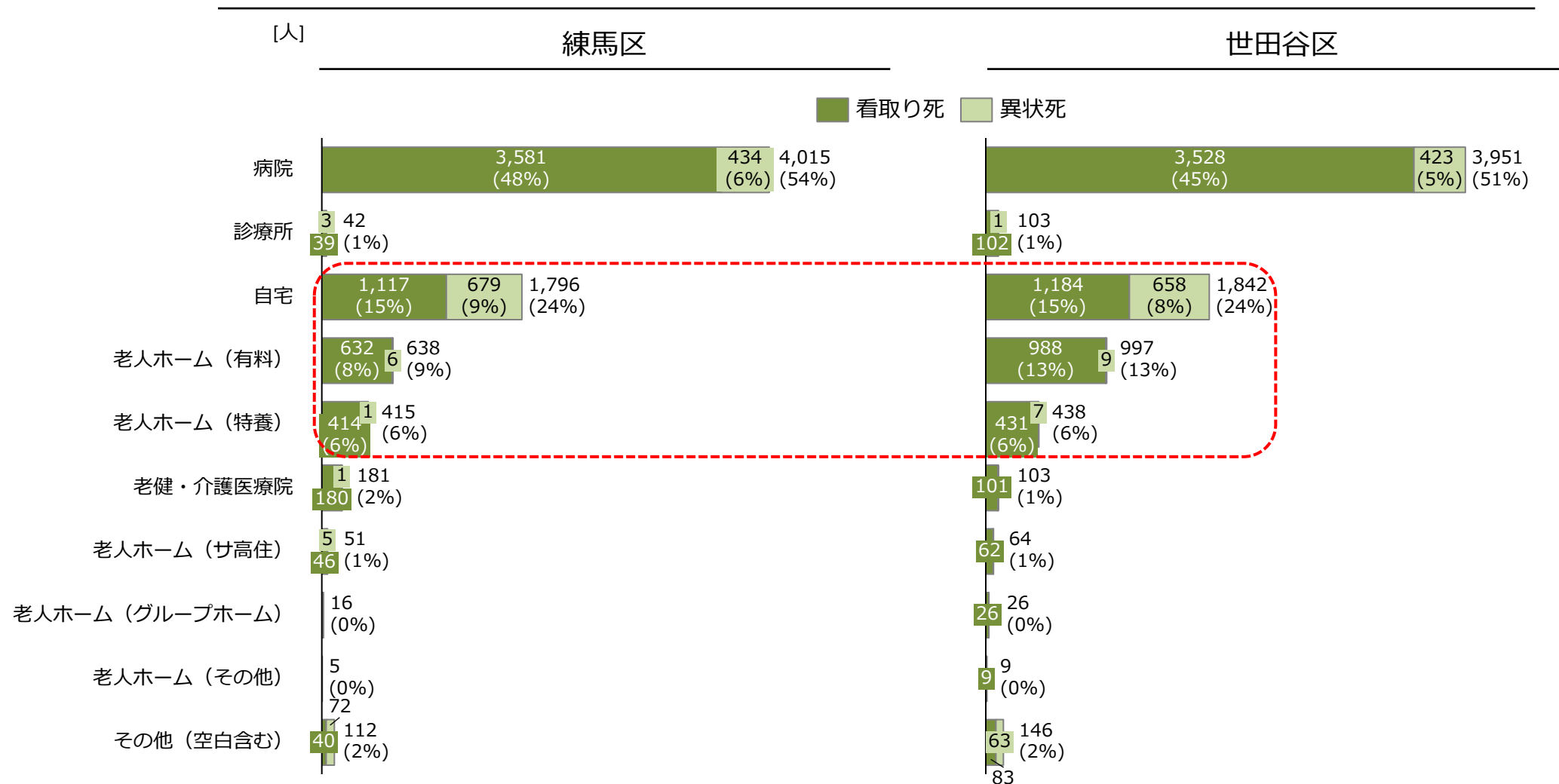
*2:令和6年1月1日時点での集計 *3:令和5年7月1日時点での集計,*4:練馬区は令和6年7月1日、世田谷区は令和6年1月1日時点での集計

出典:練馬区「第9期 練馬区高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画 人口推計等資料」、世田谷区「令和6年高齢者人口」、東京都保健医療局「令和5年(2023年)報告 東京都における医療機能ごとの病床の状況(許可病床)」、厚労省「届出受理医療機関名簿(医科)」、東京都福祉局「施設一覧」

【参考】令和5年の死亡者数_死亡場所・死亡分類別（世田谷区との比較）

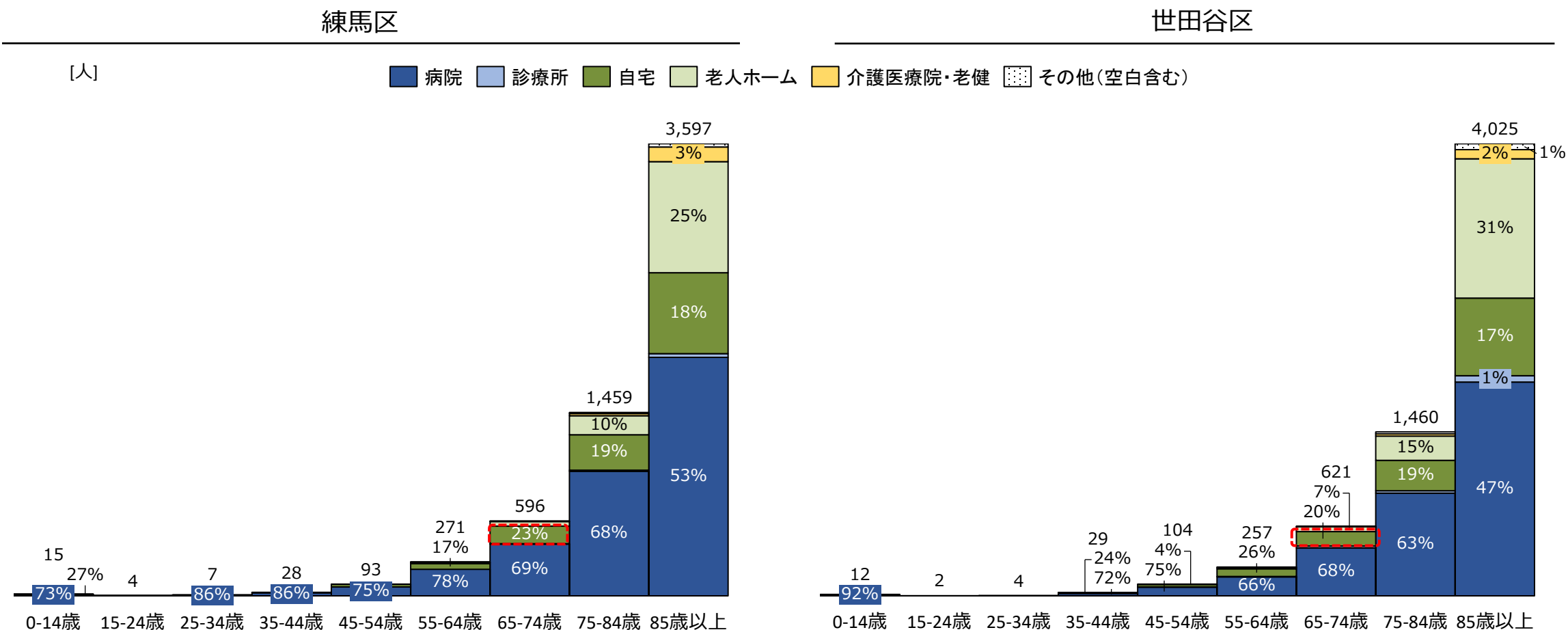
- ✓ 両区を比較すると、自宅・特養の看取り割合は同程度であったが、有料老人ホームの看取り割合は練馬区が世田谷区より約4%少なかった。

死亡の状況－死亡場所・死亡分類別



【参考】令和5年における看取り死の比較_年齢区分・死亡場所別（世田谷区との比較）

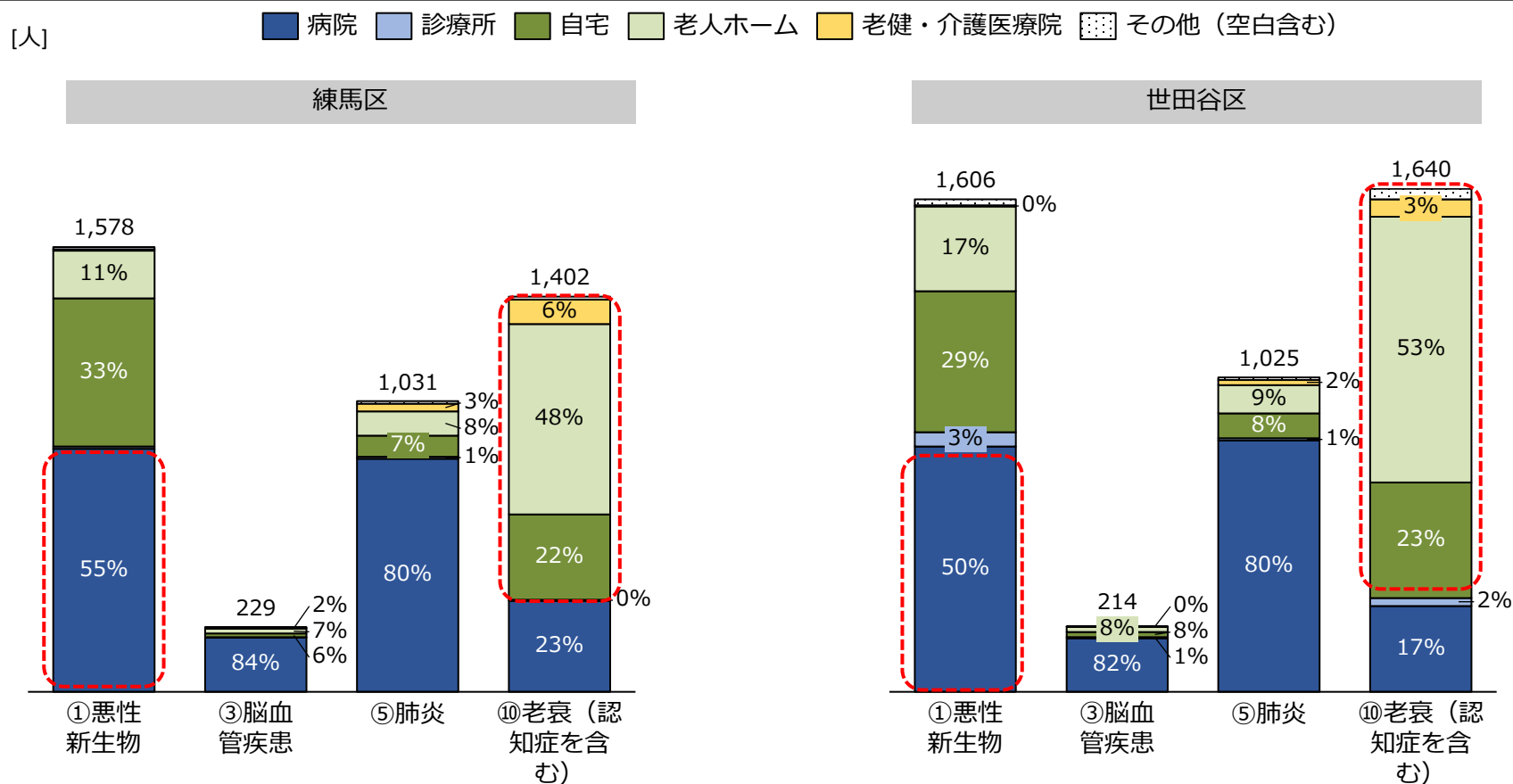
- ✓練馬区は65-74歳、85歳以上の年齢区分で在宅看取り割合が世田谷区の同区分と比較して多かった。
- ✓両区ともに医療機関での看取り割合は年齢区分が上がるとともに減少傾向にある。



【参考】令和5年における看取り死の比較_死因・死亡場所別（世田谷区との比較）

- ✓ 両区ともに悪性新生物は50%以上が病院看取り、老衰は70%以上が自宅・施設看取りであった。

看取り死における死亡場所の内訳（主な死因別）



※両区の死因分類定義を揃えるため、新型コロナウイルス感染症をその他として集計